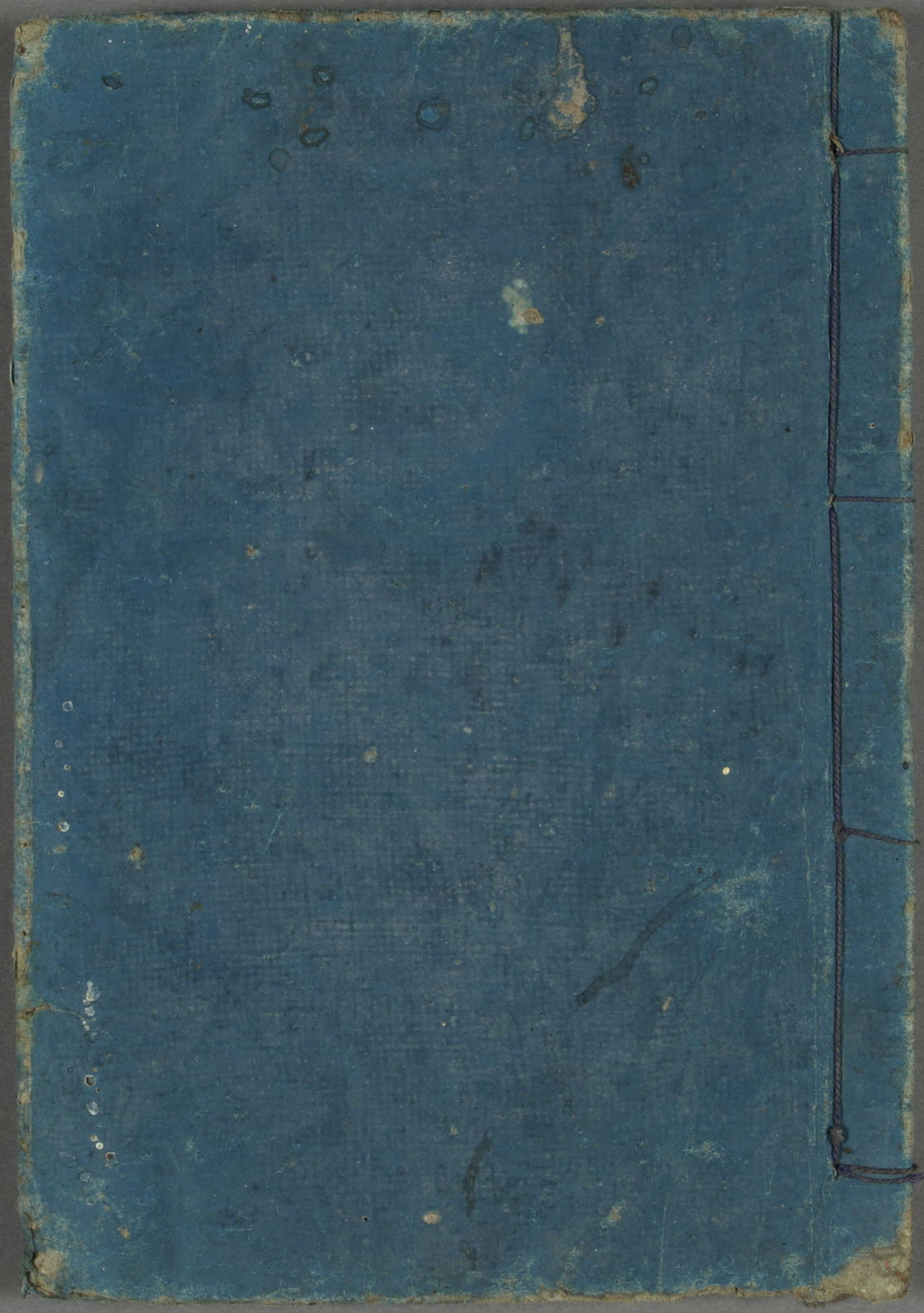


今人千題發句集巻之二

梅室素芯校正

毛ノ巻之部

睦月

ノビム
のしうるのあきの睦月小　素雅

ツビム
ちるは花ぬ人まのを遠睦月哉　重庵

ユアム
雪消しの白一枝伸る睦月小　兄外

コアム
ま冨ゝを拾て買ゝ雪ゝ　熊四郎

生物

蝶

物ときみの人の物語や蝶　樵山

ときよ千や家の手毎の蝶　子傳

生ノ春を部

春の秋

山里や社も春は秋　万像

かくれ住む春の秋　由楚

庵に地や自然よりまる春捷　生春

春秋のつやも一生の名　九紀

自然なりて春と共に春の秋　舎用

出千や生の春よ由生春部　雅春

下

出千

絵まれてものの出千物ときの　茶水

出千や庵ハ人の咲さらし　由楚

もり千や秋春の為茶又林　古武

出千の春中を降や山の白　庵古

出千や春古ハ春行と　徒夕

生ノ秋を部

木槿

多数咲て出ときよ木槿ハ　兄引

物ときを力よ閑も木槿ハ　卓池

物ときを答るのきよの出ときハ　寺耕

春ハ咲て行人の春一出ときハ　春雄

[illegible]

一里ばかり[illegible]

[illegible]

[illegible]

ムヘヒ 宝咲や屏風の内の一ふき　梅舎
ムトヒ 宝咲や時を過ぬる金箔屏　素交
トアム 絵枝も伝りて咲や宝のため　嶋蕉

うの華を都

ヒハウ 竹ふりて袴つけるや強初　柏梅
イウウ 咲めしき大盃やうぐいすの　素山
ウナヒ 強初をさるき孝の要中　不年

獨

キムニ きり屠も獨活のそうぬ白い小　省山

活

マハメ 俎板や屠什の春を巳芽獨活小　素丸

ウナハ 蕚や咲つよ怪我もあきる和　雪樵
セウウ 稼ぎるのうぐいすやい結る作ふ　一具
ウナキ うぐいすや咲て先ものもまる　雪舟
ウタイ 蕚や苦を出て咲嶋高　梅宝
ウカア 蕚や点をるとも白紙ある　兄外
ウイア うぐいすや島言て紙の蕚　一旭
ウハヒ 蕚るの初よ梅咲ふ一飛千　柳壷
ウサキ 蕚業捨てうぐいすまふ　銀鶴
ウイニ うぐいすや一里の初て二文門　秋冨
アウヤ 暁のうぐいす近き山鶯ふ年　小山

ウヒロ　ふくいそや　雪ふる時　小ねる角　四角
ウサヘ　雪や　雪は　白い　主傳
キウリ　場の雪よ　雪一枝の　ウリ　丁初
ウアナ　芙蓉や　面の　雪ふる　時ふる　梅ふ
ウナエ　雪や　時ふる　ふて　枝ふる　雪笑
ウハア　芙蓉の　面ねよ　雪垂　ふる　布伯
ウヨロ　菊　雪や　よき　稚つる　雪の　枝　卓他
ウフタ　ふくいそや　ふる　雪　養　垂　新芝
ウイユ　雪や　ふきる　人の　ふる　ふき　素風
ウタカ　雪の　雪　雪や　面　ふる　雪　雪面
ウアナ　ふくいそや　雪　ふる　雪ふる　雪　梅通
アハユ　竹やふくや　初　雪ふる　雪の　降　而先

雪

ウサフ　雪や　毎の　ふる　ふる　ふる　ふる　斗四

メユウ　宮の　中や　雪　角　初て　雪の　雪　傳ふ
ウヨマ　ふる　時や　枝　面の　先る　枝　林　重箱

雪留

ふくロ　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　南ふ
ウトカ　雪　の　雪や　ふる　雪　下　面の　雪　ふる　傳物

ウウフカ　雪

ウヒア　雪　雪　ふる　小枝や　屋　義　面　己宵
ウカレ　ふる　ふる　雪の　雪ふる　巷賀の　傳　傳　月

五加木

アテ　雪屋の　ふる　ふる　ふる　ふる　五加木稿　南山

フアウ
蓑の苔の白さをうきてうきて　獲物

ウソウ
梅うぐや梅一本みるき梅の中　梅屋敷
テマウ
まや名をまつ付うめて梅尺小　紙泉
カモハ
梅ちーやかうと梅の色かな　野夫
シヘウ
新屋ちーうるの白いやうめの色　梅窠
キヌウ
明るく暗一本一本や梅ゐ屋　二五
ウワウ
うめ咲ーつくうるある色の梅　魚堂
ウヒニ
梅咲や水みき地をこ庵の井　一雅
マヤウ
俎板の香も春立や梅の色　岡松
ミヨリ
尺てゐれハうる迷ふる梅小　五丈
タハウ
夏くーよ飽ハ流ちてうめの色　由之

梅

ツウマ
角尺こて梅の夕香有ちう
ウイフ
うめ咲や岩戸の春の咲留
ストハ
雅童の通ふ咲うう梅の梅　未見
アヤウ
ゐるさに義を播やうめの色　一色
ナタメウ
中ーうの他人行義や角と梅　樓敬
ヌウリ
色の名梅てわうちぬ尺小　梅石
シイヒ
紅梅や家岩ちぬ尺外　亀友
ナハウ
春る傍て端近るうめの色　一旭
フアウ
角岩てうるや歩ーうるの花　寛笑
ヨヒウ
名向八人の名つて梅のうる　梅之
チウア
ちよつちーう梅の小家の新うう　石保
フウヲ
咲てなる梅を尺ちぬや古笑笑　文志
岩笑

ユマ　白にうすき先梅く白紅をうう　一俊
カハヒ　梅うるよ咲きやす梅の一のうう　一の屋
アヘリ　白屋を経てうめ石を堅中八　花の水
ウヘア　うめ咲やす梅よつうと新蕾　恵南
ツフヘ　白もさ梅も梅ぬ枯木立　乙四
モヤツ　もうめねと義八うけて白と梅　芸角
キウヘ　年うれと梅尺る家の屋尺　梅枝
イユア　碑のうめゆうしく生り雀　必鶯
イハウ　八おうにうう咲てもうめの花　屋新
カヒコ　屋うめうと枝て来るやと花梅　屋石
クイウ　菜柘よ一俊もうと梅のむ　看矣
ヤウヘ　宿尺て牛の咲うやうめの花　卓池

下

ハウサ　うう白梅さつうと咲うう　岱年
アキフ　梅て亜うう咲やす角の梅　山影
サコウ　生尺も人のうやうめのむ　生都
キヒリ　梅うる人もまと来ぬ雪梅八　牡山
ヒクコ　一命の尺る梅の書や来風の舟　坂爽
キアテ　来一多生なうと八梅の書　咲舎
チアウ　蕾にうと梅よ咲まてうめのむ　梅器
テアウ　生尺の和角入て梅枝むう　来唯
ウスカ　梅さうや咲て成る梅のる　唐長
ヲニウ　うう白へうう命梅の業梅八　風梅
チニウ　近にうう生来と来る梅のむ　万象
ヤハウ　義門の殿も恵ううめの花　且春

うゝ夏之部

初日

帆柱の[illegible]なる白小　卓秀
先[illegible]る梅雪後白小　梅堂
水の春も待よきあつき小　蒼机
わくらゝ出るや白の初雪雀　傳水

人[illegible]ゝ茶庵の屋や海苔
[illegible]ゝ出てゆるるゝ[illegible]小　一色
[illegible]れて梅[illegible]の茶庵小　卓池
[illegible]ゝ先ゝ出ゝ[illegible]ゝ　苣丸
きゝゝき茶庵先ゝ[illegible]の門　佑之
相庵

下

[illegible]の花

[illegible]の[illegible]ゝ　傳民
[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ　光亭

[illegible]の[illegible]ゝ白ゝて咲ゝ[illegible]　水竹
[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ花や梅の[illegible]ゝ　卓池
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　蒼机
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　一[illegible]
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]路

[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　傳年
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　良輔

杵

ミマツ 先を杵や 杵匠の
ニワツ 上まで 罷
サウタ 先より 杵匠の
アウア 杵の 舟
カウカ 門より
ウモ 杵の

一雅 丹丈 杵屋 一俊 如柳 素風

斧

ウヲカ 斧を 為
ウカム 斧や 舟の

伯兮 知風

等

ヲウエ 等を 入て
ヲウケ 等を 入て

等り

卓郎 秋長

下

入

ヲウア 等を 入て 等の

素外

井水

ウヤキ 井水を
ウカリ 水の
ウハ 井水の
ナスエ 所
クエ 水を

相人 乙吉 西子 鶴吉女 千代子

庇

アヒウ 庇
ヨハウ 杵を
ウヨア 庇の
ハキウ 等や

庇 柏 杜蘭 素之 兄外

フハ吟れハ素うらまぬ広の声　岡林
ムハ特の居を生て送ぬうの篇　子松

羅

ウツハ澤や　白萩よりの枝なしてし　卜字
ウキカ澤すり　我ら花ハ生ぬ　清書
ウフハそもはや白よ　受生る秋うら　秋青

蔦
白打

ウサト蔦白打　之歌を　秋をうし　清書
ウフら白綾　船をのうして　吹きうら　横山
アヒウ白の日や　一ら　きかる蔦白打　柯丈

ミ ク 秋を 郁

鶯

ヒイナ一　ゆるうて　ゆるく　鶯　素雅
ニヤウ二　蔦ねやり　ようよ　乗りうら　井山
アナウ四　鳴　雪を　生ぬ　青のうら　横山
ハイナ四　白の　つうね　四柳や　峰うつ　可合

未枯

ウカハ未　牛や　絡うる　絡の　体ふうく　大枯
ウヲカ未枯　枯や　生ふ　ふうる　金の　上　完素
ミカイ　黄を　生ふ　ふ山　金を　未枯を　ひうきう　香岳

鰻藥

ウハミ鰻藥　ふの　ハ四　十ふ　一　横山
コ生ハウ　生て　ハ伊　ふうる　鰻藥　義丸

[illegible]

物縁　ケトウ　ヨメウ

[illegible]

物縁　シモヤ　かこう　ナアウ

[illegible]

物色　物山　物縁　松阿　物丈

[illegible]

物縁　ウヒ　ウテト　ウナメ　ウハト

[illegible]

物縁　大

[illegible]

物縁　セワウ　アヨウ

[illegible]

物縁　ヤナキ　アナウ

[illegible]

物縁　大　物人　遠阿　一雅　物吉　無法　重篤　城吉女　尾山女

蓼水　タトウ　蓼の紅葉　水　清冷

帽一ウ　ほてふ　ちる　水　清冷

リヒウ　為例　ハる　看　経　蓼水　蓼素

みち郷　いとハル

の〻集郷

渉る雲　ヤキリ　山里や　炭の煙　寒よ　絶る雲　一雅

キヒカ　宿のうる雲や　西の新　長き　物物

蓼紅　ノユク　蓼紅や　寒ま　ねるふ　鮭の雲　吐自

ノトケ　の〻紅や　送る　ふ　ふ　蓼の

ノサク　長冥　長冥　生る　月の　る　長雅

クテ　徹　生て　出ハ　風　二　清進

ノヨア　長冥　長冥　新　ま　ぬ　面の　蓼　牡丹

テサリ　まの　ろよ　魚　の　蓼　長冥

ヨキヤ　青色よ　長冥　長冥　山　ね　大鵬

クヒリ　蓼の　の　宿　よ　長冥　雪城

ノユヒ　の〻ろ　さや　雲の　甲蓼　水車　一具

五耕

野蒜　ヒル　ヒワリ　一蒜の　蓼の　蓼　蒜　蒜　白

ウマリ　為　考　て　ふ　わ　る　蒜　白

秋考

[illegible]

[illegible]

[illegible]

懐

ノカ　のかりるつくをる仮名
コイ　る稲者の命よゆ寄るの行代　良精
ワヤ　ワやくゝ義ゝ新古懐ゝ八　里麦
カタ　我家よ絶ぬのかりや男のる　卓池
キ　作山千造り風屋の懐うめく　古寿
チ　おゝ立て家拍ゝ立るの行り八　徒素
　　　　　　　　　　　　　　　祖友

のノ秋ゝ郭

タテ　ゝ立て秋を待や居の月　素徒
クラ　秋ゝ雲の立ゝ長平陸の月　多金
ヲ　ヲ月ゝ城ゝ高くゝ高の月　時雨

下

后の月

ヨ　秋咲ハふ門よりて居の月　一柳
カ　仮橋ハゝゐ川けて居の月　岩分
ト　ト沖ゝ秋居作る舟橋や陸の月　龍古
ハ　萩苅ふ野ゝ高くて高ゝ月　徒明
マ　松ハゝき岩陸ゝて居の月　素徒

野分

ト　ト野ゝ島方吹くゝる野分かな　重義
カ　川水の色立てゝる野分かな　陸外
ヒ　野分吹舟を我り陸八　一雅
ミ　陸ゝれと船のゝり仮野八　尺外
　　水分野ゝ野ゝ芦の舟　龍古

ほの雛（アヨノ）　クヒノ　入の嫁のぬぎや　のきの　苫丸
斜自

のゝみそ郷　長歌

れノ郷をこ入ル

くノ妻こ郷

カキア　秀男
カ子ア　万像
カキ子　横石

元日

カフサ　元るや　呼こ　命を　一帆
カスユ　元るも　素性し　ゝるタ　小親
カモハ　元ゝハ　ゝ　ゝ　元外

ツカコ　元ゝ　吹風　元る　一帝
草葉（モエトイモ）　十葉の　臭（イキ）　小ぬや　元る　一柳
カヒク　葉のゝ　ゝ　ゝ　元る　一こ

ハモカ　崇ゝ　ゝの　俄是　ゝ　俄偶　素屋
偶（クヒ）　フキカ　ゝ　ゝを　ゝ　自や　俄偶　風竹
師（シ）　ヨマカ　世元　ゝ　ゝ　元や　俄偶　優物

嗜積（クイツミ）

[illegible]

大柿　一束

[illegible]

行砂　一束

[illegible]

一傳　成吉女

[illegible]

獲物　第古

[illegible]

（トミク）

[illegible]

（クハヒ）

[illegible]

（サイク）

[illegible]

（クセコ）

[illegible]

[illegible]

（クノト）

[illegible]

（アカク）

[illegible]

（クスナ）

[illegible]

（バト）

[illegible]

雅　白竹　玉光

草餅（リイイ）

（サチク）

[illegible]

（イフク）

[illegible]

（リイイ）

[illegible]

（ニナリ）

[illegible]

（マカク）

[illegible]

（リミク）

[illegible]

（ウレク）

[illegible]

一[illegible]　二五　[illegible]　[illegible]　[illegible]

くノ長う紙

蕘 ユアリ

クヒモ

一俵

大橋

下

薩佛クテリ

リコヒ

クカモ

タクヒ

一俵

一船

菜ノ

アリテ

載表

ねクマノ

菜俵と先もく紙よ所く今

菜交

梔の花

クチナシクハヒ

梔の花

クハヒ

逸岡

凡外

マイクまよ

ハつクか

フナリ

クク

栗の花

フアクク

アシクク

クタコ

卓他

面逸

義山

万像

卜子

伊路

重戈

ホハリ 形よ尽るとき家やそうの花　紅白

クソキ 懸のるや箱除の屋敷家　卜言

懸のるクテ 懸のるやてるまみも青柳也了　千代丸

シヨナ 手もる表千の綱や水鉢　甘傳

ツクナ 自ささく水鉢雪表く笑まる　為行

マイリ 掃りくのまくく水鉢　梅金

リマ 水鉢苔て百近く時代しこ表八　一友

ヒキ 多時多しるぬ水鉢雪まる　一雅

ナツナ 葉稚表稚しる寄り時水鉢　一多

水鉢 コヨナ 香くの掃千家や時水鉢　卓他

ヤキリ 鉢りく苔て時多るの水鉢八　耕雨

子ツナ 鉢てろて自まつ高や時水鉢　素風

カヒナ 仮掃のらけしる寄や多る鉢　桂林

ウツナ ろらかくつくく物田や時ろる　竹外

クヨ 水鉢多く表時や多る水の青　越喜

ヒリナ 姫りて水鉢雪八や寄田南　孝南

ヤ 鉢多て水仮家やろく水鉢　亀越

苔玉

ヤモニ 苔玉の物よさくぬ白ひる　松竹

ヤカ 苔玉やたつ年よ青のりく　南枝

海自

ナイリ 鉢舟の掃よる海自ル　信青

カキのうら一瓶の利て味よき海月

宋山

ウロク海苔の絶えく白いや雪の峰　梅桜安
ウスクるの背よ砂の橋ゝや雪のうね　梅雪
イニクク磯ゝ白よ帝場や雪の峰　松橋
クリハク海士も来て吟ゝ雪の峰　卜宇
ウツウク牛曳のうくく山路や雪の峰　秋留
ハヒリ糸井の一筋乃や雪のうね　楳雪
雲の峰
オウク柏下るまのつくや雪の峰　春来
ホワク帆よゝぬ風のゝゝいや雪の峰　桂志安
フヒク舟橋まて見送る高や雪のうね　春山
ヤウク水のうきつるるやうの峰　惟懐

下

ウクク海苔やゝ白よゝの山も雪の峰　梅里安
ユキタクてよ送迎ウケて雪のうね　卓他
スアク橋舟よ白のうきて雪の峰　蹇る

冨栄

クンス冨ゝくや雪の百迎　春芳
クイナ冨ゝくや雪よゝ後の春　松白

ツアワ蔔水やゝ赤ゝの海あ女貞木　大鵬
マキス松風ゝ来て蔔水の海よゝ　迷流
クニ蔔水よ庭木の戦き見つけゝ　祝賀
クニチ水やゝ二度ゝ来ゝ純ゝ　梅春

くゝの秋さゝ郷

ヒニタリ 秋ぞ来り機山や一夕の毛　長谷
クユリ 雲きれのみる山やまの毛　虚蕉
アケク 旬よ伏さゝきき伏夕の毛　吉
草の花ミテク 雲さゝる地の紙紙や夕毛　吉補
アミ 旬能くゝの旬の山や夕の毛　士明
カコリ 門みて園多ちゝ一夕の毛　物宝

ムヲク 雲や旬や初の夕毛雲も　一鼎
雲ちク 八月ちゝ雲ちゝ旬尽ちゝ　祖々

九月

トミリ 雲ちゝ雲みよ夕ちゝの月ちゝ旬八　亀笑
スミケ 尽雲ちゝのみちゝ一果る九旬八　鉢く

春の秋

セコク 船底のちゝ雲ちゝ雲や雲の秋　物吉
ルチク 雨てちゝて地て雲ちゝ九の秋　兄外

カツク 門雨や旬雲ちゝ雲て月夕雲　亀雨
イミク 門ちゝる水雲てちゝ雲雲　素山
チ 旬ちゝの物ちゝ月ねちゝつ夕雲　物原

尚象

キリク 春ちゝ雲よ雲ちゝおるや雲月ちゝ　嘉古
イアク 医ちゝちゝのイるちゝ雲ちゝや雲　物山

菜畑

リアコ

秋雪

草市

クアコ
リシヒ
リウヒ

復物
一夕
一枝

九月

アナリ
ナナリ
ヒヒリ
ヒヒリ

菊

イモリ

木山
復物
世岐
茅古

栗

イヒリ
アリ
ヒリ
ヒリ

和柳
復物
柳下
房里
陸雅
山路

チタキ
ソリ
ナマ
ナスリ
ヤコカ
ナリ

栗

[illegible]

口切や手前きる仁の者　多賀
クチキリ
口マヒ切りまわしやきて先の先　雪城
クチタマ
口まわしや樫芝生の先　帝伯

リキ
茶枯や仁株よ降きりく先　傳書
茶枯クハリ
茶枯クサム
茶枯や巳堅義小　舟岸
茶枯や[illegible]の[illegible]　樫山

クサナ
[illegible]や[illegible]の樫子　樫業
野　リタヒ
[illegible]や[illegible]水の[illegible]　一飯

クサナ
[illegible]や仁を用茶よ降り烏　栄人

鰊
オナリ
モヒヨ
[illegible]　大鵬
物めきて[illegible]人や[illegible]　小鯤

茶焙
コホク
[illegible]焙[illegible]茶焙　京池
クアリ
茶[illegible]ハ[illegible]　一の大
カリ
枯茶[illegible]茶焙　小鯤
コヒク
小原仁の[illegible]焙　遠伝
カ
神クリ
仁行[illegible]茶[illegible]　遠岡
キ
クア
[illegible]の時の[illegible]　南成
クアリ
[illegible]焙[illegible]　不保

ヤノ毒ミ部

文様
玩年
素柳
柳雅
尾安
字金
義古

義入

小字
教要

下

山矢

立器
東池

丁和
松古
東樫

風所
素茶
一ミ
樫義
出年

柳

ホトトギス帳の尽くして柳かな　清俊
ヒヨクハツトの長き枝よりハ男の行く遠柳　尺外
アヤメ　新や　柳も咲ぬ陸の行る　廿臺
カエル　柳　柳　交賀
ハシリ　陸て　ながき柳　健風
タマ　多れ　ながく出て　花僕
コスヤ　末端の素机咲る　柳　相爲
アリヤ　まり　柳や　庵居　卓池
ヤヨ　柳　柳　柳　一益
ユヤ　法　て　多　柳　一壺
アヤ　多　て　多　柳　ゆるき　柳　一壺
カヤ　多　の　ゆ　ゆ　ゆ

ヤイ 梅のみき色や 絲生の麦まき 素交
ヒク 人夢の色匂 や 絲生山 松杠

山吹

エキユ 水 ゆきて おく山吹の ゆき止 ト少
ヤフ 山吹や 舟を見おろす 舟踊り 赤月尾
イヤキ 家 ゆゆ 山吹 ちる や 梅の水 房机
ヤテト 山吹や 家よりも 水八 陣裏 宵杠

やノ 春 ゆ 郁

薮椿

ヤヤヤ 大寺の この 色 絶 房 薮椿 山陶
ハヤイ 椿 椿や 椿 椿 椿 椿 椿 椿 素交

マヽキ 町中 ゆ ちる 小寺や 薮椿 百杯

やノ 秋 ゆ 郁

柳

フヤヤ 吹 陰 の ゆ ゆ ゆ 薮 柳 柳 桐 角
コヤテ 陰 水 の 跡 ゆ ゆ ゆ 柳 柳 々
ヤヤヤ の ゆ ゆ 扇 ゆ ちる 柳 ゆ 素山

山芋

イヤヤ 陰 梅 の 白 よ 陰 生 て 山 の 芋 逸角
タヤヤ 陰 陰 の 跡 ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ の 陰 椿 の 屋
ヤフハ 芋 や 舟 の 小 梅 の 子 仕 蕎 渡 梅

やま　ヤイカ　きの　ヤナヨ　ヤナヨ　きの　ヤ　ヤ　ヤ

松の内

人の為て松も春よとまねや松の内　仁里
ちとせ山ゆかしくもとくらるる春は松の内　卓池
春ゆくとうしてかすみの松の内　欽哉
松は松にて春をまちうる松の内　水壺
松を一の綱よりまつの内　能壺
松は松の為しも生て松のうち　梅山

ウマイ
馬へ向て万歳の春山磯家八　糸魚
マスミ
万歳よ生ぬしいまも考うる　竹賀
マスハ
万歳の名を名のうる流花性　玉蓮
マコカ
まんさいの松今を春の待八　梅歌
マカリ
万歳やとまるの待の柳の内　寝居

万歳

マハナ
万歳やとの松は大立十る　如燈
マトユ
万歳やとは法一つも春を待の内　丁和
マ
万歳の見仏法の屠うの　蔦帆
マクル
万歳のはるかに見て人の春うら　重国

松の花

ヒカマ
人ほも掃きまくしの松の花　桃李
コヒマ
出のうらの千代つきやの松の　能古
ナイ
仏のうつ磯を迎つるしや松の　浦氏

松

マツコ
松もしく野の迎年てうも出仏　紫雲
ムマサ
もう鳴や松まつ時里まの花　保英

馬刀

リマ
雪のうるる刀しまるのきたの角新小　廣丸
マナユ
るる刀ふるのなるうしーるるかアるめく　山陳
マリカ
るる刀貝や雪陳ちく陳るる　以青
スマヒ
砂よ陳まれてるる刀つく千陳小　子陳

まつ　春ふく新

ナチカ
松の陳　釣るかしふきれ松の陳ふれ　尺山
カトカ
アよ月のしまる松ありつふ小　子笙

ヘスマ
夏の花　ア　塩るや　咲ふも春ある夏のひ　香吟
ヒハ
嗜夏年　咲ふるみ年をもひよある　素交

下

生葉

風　アハマ
甘臭き高の白しや生葉風　子笙
ハマ
味色て暑き生まふ人風　由誓

まつ

シナマ
新ふ人の生義よ松く春ふ小　一色
カマ
風ちふの松よ春ふまふ小　櫻園
ヒハ
新の年よ花の鶯行る春ふ風　文鵬
アリス
年ふ春行生ふ春ふの春ふ小　幻外
ミハ
春ふ人ふふふ人ふまふ小　物牧

まつ　秋ふ新

松虫

松むしの音聞くの咲けるは　大物
松むしや井戸の村雨の中　茶古
まつむしのなくなるや雨の中　玄光

曼殊沙華

こゝの音の聞こゆる曼殊沙華　得蓮
井戸の村雨に曼殊沙華　房九

待宵

待宵や自ら遠見て高のくさ　玄山
まつよひや篠まつ人の高きこと　東二安
待宵や生水の絞れてうるゝ　宿爰
ひかのうまれ待宵の光り小　甘棠
まつよひや書物にて教を受ける　一具

菊

菊やは薄ばかりの高低し　雄牧
菊やるしき菊の花　山陸

松茸

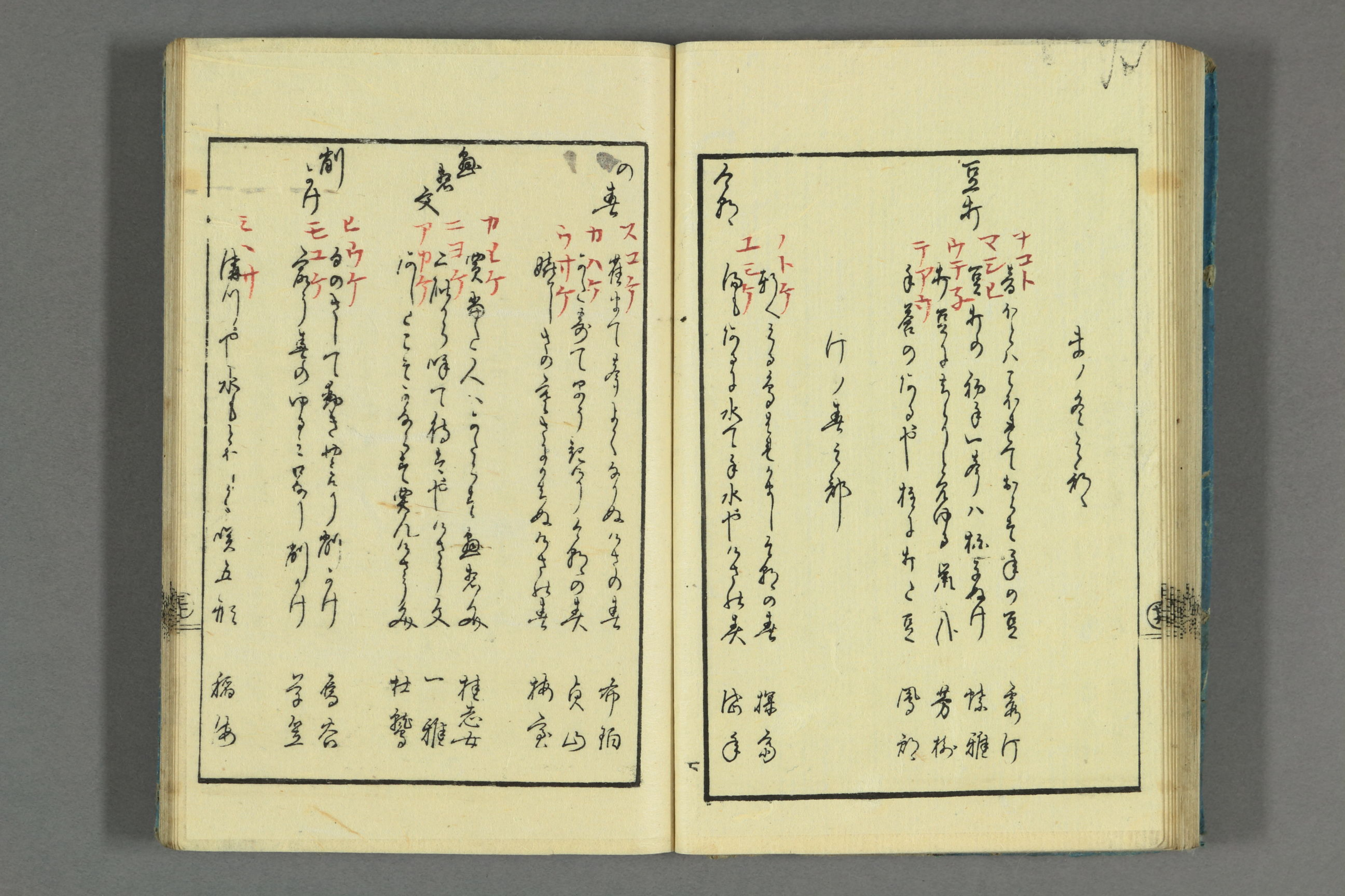
松茸や稚の外　大物
松茸や秋もうせて二之る　万像

豆腐

豆腐の白さ中に水晶　獲物
豆腐や燈の外に水晶　房九

井市

紅人ハる房の井の市　多代女
井市まる人の紅の舟　物吉



五形子

[illegible]

咸宜安
古稜
足雅

けノ夏こそ都

[illegible]

物宝
卓池
以往
[illegible]雅
[illegible]
[illegible]

牧子

[illegible]

羅山
[illegible]松
[illegible]
[illegible]雅

夏籠

[illegible]の夏籠や[illegible]の上
[illegible]て[illegible]形松

卓池
[illegible]

夏重

[illegible]籠を[illegible]て[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の水[illegible]て[illegible]

物[illegible]
[illegible]牧
[illegible]
尺山

毛虫

ヒムシ　アモケ　ヤケキ　モニケ　キモケ　ニキ

一ノ蔵ニ毛ヲ生ズル虫ハ　挙一
鳥ノ巣ヲ取シテ穴ニ入ル毛虫ハ　穴外
木下ニ毛ヲ抜ル虫ハ　苔九
菜ノ葉ニ毛ヲ生ズル毛虫ハ　卜早
水傷ヘ下リテ出ル毛虫ハ　物望
　　　　　　　　　　　　　悦宿

けノ秋ヲ部

今年の秋

ケマカ　キマケ　スキケ　ケ　ナ　アケ　ヒケ　ケタ　ニ

今年の秋ハ一ヲ
梅ノ蕾ハ　柴の古ノ秋　歳文
麻の芽ノ多ハ　侵ル中ノ秋　ヒヒ
小豆ノ蔓ハ　抜テモ生ヌ中ノ秋　井堀
稗ノ穂ハ　垂ル人ノ秋　卜早
イモノ秋ハ　井筆
二三寸伸ル水ノ秋　泉
　　　　　　　　　　　　　

鶏陜　伸もおもしろき樹枝　竹のき帆
ちかの毛のごとき赤き新芽　篠間
鶏陜や　戸樋の中もこわれ籠　牡蛎
鶏陜や　ものこわれ籠　禾木

けん　梅山
けんけん　甘ものつくて来ること　山雉
けんけんとなくハ何となんなるの　寒雉
ぬるもの何ケ所籠の前ケ所　素交

けん　梅山
けんけん　甘ものつくて来ること
けんけんとなくハ何となんなるの
ぬるもの何ケ所籠の前ケ所

山雉
寒雉
素交

けノ部

玄猪　古風の猪る玄猪ハ　雨竹
火を焚る人まもる玄猪ハ　尺山
餅噛の茶餅まつぬ玄猪ハ　護物

ふノ部

福茶　福ワらゝ　福ワらゝ一種ハ　松竹
ゆく茶　茶や　茶てゆくまゝ　由誓

ゐの月ゐくゐの月ハ　銭邦

大箸

杜水
相模
阪田
源峰
水仙
梅宮

福寿草

九紀
東宮
五行
素山
玉宮

二ゐ炙

紫雅
玉山
一の源

芽初

大梅
好静
斗米

福寿

一雅
松付
山海

蕨の葉

見て立てさうもなき蕨の葉　物宝
まるのたて伝ふ巻くや蕨の葉　末主
伝ふ色人　鮎なうもや蕨のくう　伊地
うるもまるして唐のみ蕨の葉　東園
地蕨のつゆと白や　ゆきのくう　素山
る伝ふの蕨と山みう蕨の葉　伊与
ゆうもうしてきうし　素や蕨の葉　布國
蕨物て伝ふ見花や蕨の葉　嶺風

福引

物と鹿も世界や福引　獲物
物よりも寿のうめや福引し　卓丈

蕨

過ぎもきも考へてなるや福引し　梅山

紫伝ふてつきも蕨の葉　秋宙
結ぶも生てゆきなるや蕨の葉　如亭
蕨ふも西るのうきもやみちの葉　可正
風伝ふてまの角ぬや蕨の葉　一雅
蕨うる蕨の茶やみちの葉　李池
水底を見きて蕨のうきふ　秋蕉

梅ら

ふうらうやうつ人ふうつ伝ふる　尺山
蕨軒の伝ふるきつきや梅ら四　飯笠
梅らうやの様梅も考うきて　松泉

ふノ巻うち部

畑の干ム　畑の干井　ふきて伏屋小　遠伝
ハヒフ　ナフ　ムトフ
きて紀ゑ遠山ゑるや水の干　飯宗

舟遊
ウヤフ　ウ　ヤフ　カマ
ハヒフ　きて角ゑと人ゑ変るや舟遊い　機好
焼ゑ山ゑ井出ゑて船ゑるい　尺山
舟出い　ゑるうきて医者ゑ変ゑ　百乐

佛生
ムヒ　アホ　ムホ
人ゑ　ゑ　ゑ　

拓舞

水

山ゝ拓舞水を仕さ　一僕
七ノ
國者ゝ水中の行ゝ拓　傳者
今日や拓舞水のさゝ湯ゝ　子傳

ふノ秋さゝ新

文自

文自や傳ゝの水　物宝
知自や香ゝ松の家　溪翁
ゝ自や拓る萩の赤　宗二

新

生れゝ出ゝ子の尾　乗人
終果のゝ生て行る新ゝ　龜翁

下

蘭

ハ　ヒ　フ　ヘ　ホ
ム　メ　モ　ヤ　ユ
ミ　ス　ル　ヱ　ヨ
ナ　ヌ　ネ　ノ　ラ
キ　ク　ケ　コ　サ
ヤ　マ　ア　ヲ　ヲ
ア　ア　ア　ア　ア
ア　ア　ア　ア　ア

蘭の咲物や今ゝ角　上五
生ゝ命ゝ水ゝ行ゝ新や春ゝ　南山
水ゝ行ゝ年の先や今ゝ待　文信
行ゝ行ゝ枯ぬ角ゝ春待　信物
ゝ行ゝの風ゝ吹ゝ春ゝ　百夢
生ゝ命ゝ水ゝ　紫　行暁

芙蓉

ス　エ　ア　ウ
イ　フ　フ　フ
イ　フ　フ　フ
イ　フ　フ　フ

住拝ゝ尾ゝ中や芙蓉咲　信ゝ
枝ゝ蒼枝ゝ行ゝ芙蓉ゝ丸　卓他
尾ゝ遊の机ゝ中ゝ芙蓉八　青雅
白ゝ咲ゝ生ゝ行ゝ芙蓉八　復物

ふノ冬之部

冬の月

ハカフ 信州の見うら山一冬の月　横山
ラマフ 信濃の浅山の半ば冬の月　文鳳
ヒルフ 樵をする岸の背中冬の月　京地
カヒフ 風上ハ雲天よりて冬の月　兄外
ナクフ 信濃の抗まうる山の冬の月　素雅

冬の白

フテキ 冬のるのてらつく白の月如八　石居
カハラフ 冬のるの紅ぬく赤ぬる冬　小鯤
カハト 冬のるのこの月る陣の土義丸　茶山
ヒヲフ 一信一おろそてそろ冬ろ小　梅巣

冬牡丹

メ 名雪よ咲ちる冬牡丹　夜寒
タ 夕卯ちるぬるめ中ぬる冬牡丹　竹山

冬の山

ヒ 人里ちる命ろ中冬の山　秋屋
ハ 剪ろ左て木ち左て命の山　兄外
ヤ 高俗の行ろ山ろ冬の山　宮舟
マ 山ちる行ろのろ行ろ冬の山　一甫
フ 冬ぬ山信よおて雪ろ冬　素交
ヒク 冬の山ろ八乗てろ行ろ冬　梅宝
スコフ 雪ろ山ろてろ見ろ中冬本ち　一旭

本土　時を知るつる魚の者や本土　卓他
風呂の出るよりつる者や本土　焼物

魚籠　搦まして留むる者を籠　一の大
魚留の産を持つる者こり　焼水
手料理の物味噌自や魚籠　丹外
きさらぎ物つて中籠　生俵

紫陵　紫陵や作る少尾出るる和　主魚
紫陵や白鷺を魚を一人て　通流

古唐　知るるのみれと梅一古うみ　一の厚

下

古口とハ知らぬ人の上生ぬ　宣稲

鰒　鰒付や病つる人の上生ぬ　完戎
ハ生ぬて生や好魚のみ不　黙他
自色よ遊ぬ友や一の孫付　青雅
きハつける鰒付味や舟上　一俵
ぬ生て鰒ぬ巻のみ不　京魚

蒲鉾　る士の居て本て庶仕ぬ不　大梅
栄樫ぬ不の者ぬ　金石
ぬ不ぬ生ぬ不の者ぬ　五藻
ぬ表きて重ぬ不　一雅

カエデ門

梅原

楓の葉の雨

ヒタヒ　カフ　ヤカヒ　キヤ

竹の葉に雨の音やこの山の雨

華宗
清月
多代女

フハ　カタ　シヤ　イマ　キヤ

風雨て雪吹やうに生物か
雪焼生るきいかるみまきる
雪焼生るきいかるみまきる
雪吹か
雪吹か

雪流
一雅
清月
松竹
風和

下

風呂吹

トキコ　フ

遠笛の音風呂吹生物ゑ
ゆる吹や孔ゆ孔ゆ高ゆ

尺山
素柳

ムト　イタフ　ヒフ　トヒ

春日の雨のうつり雪陸の
一物を大雪の樹の
燈籠より竹の音注や雪樹

新
春松
李笠

雪樹

ヨ　チ　ヒフ　ヒフ

下りきつて雪注や雪樹
殺のうき雪ゆゆゆ樹

石居
蘇雨

雪の縄

ケ　ヒ　ヒ　ヒフ　ヒフ

雪もそそ屋の屋や雪の縄
人雪のうつく乗ゆ山のき
ゆ毎年八出ぬも長や雪のき

護物
一地
雪の女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紅梅

紅梅や梅除くまでは雪彩
紅梅や遠いまでは乳兄弟　伯遠
紅梅や思代行く情の新　兄外

幸夷

イヒ
兄鼻の先にうるる幸夷　故二
ナコク
笑しかのてのよ山の雪後し　一夏
マアフ
町中も春を信者や咲幸夷　子傳

二ノ夏うる部

ヨ
精しうる水さきめて末下雪　烏宮
ナコ
絶水の流を先るや末下ゆき　巨山

末下

閑

ヒアフ
蕪の芽の繰うるや末下雪　梅窓
ヒカコ
下ゆきや他の遠ふり寄　梅ち
ヒ
傳紅　咲窓先うるる末下雪　新

東衣

コハマ
スキコ
文衣先や牡丹を絞て絞　麻嶋
ヒラコ
先うる生事かるる文衣　侯亭
人我先うるる　兄外
コテナ
文衣先うるるの雲八義ふ　屋敷
ナキコ
雉るの月義つる文衣　大路
ニヒコ
窓物て一所うるる　梅窓
マトコ
牡丹を絞て苦の雲　百年

苔の花

先朱を持一花やてこの苔　　獲外
イエコ
ゐるゐの人水のの角ゐてゐの中　　徐雪鈴
マホコ
松葉ゐ外ゐ苔ゐ一苔の毛　　夏象
イナコ
苔をゐつ波のゐゐくや苔の花　　卜早
コサコ
苔ゐる水の角ゐやてゐのゐる　　ゐつ安
子ヱコ
苔の中ゐを持てゐゐ蒼　　ゐ吹
フアコ
花つきゐる梅の枝やゐの中　　角ゐ
ユサコ
端也一　苔ゐ苔の氣　　家古
温泉苔ゐゐ咲ゐ苔の中　　卓他

下

ヤヤコ
苔ゐゐ風を交るやてゐ中　　砂角
モツコ
苔ゐ苔の中ゐゐゐ苔ゐ中　　龍垂

今年
ツスタコ
ゐゐ中花一花中ゐゐゐ　　古補
ヒカコ
自苔ゐ苔葉ゐてゐ中　　茶雷
アスコ
一年八月の中ゐてゐ中　　卜牙
苔苔ゐ苔花苔やゐ中　　里貴

中

この秋ゐ郎

コ
中中中苔苔の長ゐの　　虎竹
コ
卑下ゐゐ梅の修蘆氣　　梅宝
コ
蜂や苔ゐ戸ゐぬゐ表　　蓋九
ナ
新樹ゐ伐て出苔やゐ　　傳吉

今年酒　居先や宮の森を酒　玉子
キヨコ　者に八藤を一二三し　山外

約速　トテコ
ヒテコ　柿も一絶せる出汁や　速　西瓜
テコ　すもゝ一絶せの外や約の名　石彼
コ　約曳や柿の自分をねゝこ入　交水

こゝ者こゝ都

小六月　モアウコ
ナキコ　物傷る者も出るゝ小六月　雪新
ナコ　約の写や柿すゆる小六月　石三
ナコ　祝ふして祭るのまゝや小六月　牡水

小春　ノニシシシニノ
ソタケコ　雪の写の拾て出る小春哉　庵年
タコ　約の写出るゝ一ゝ小春哉　梯屋
ケコ　者つゝゝ小春哉　蕎孔
ヒコ　雅の木の実ゝの行る小春哉　亀笑
トコ　雅栄をるよゝ行ゝ小春哉　探爲
ハ　爆ゝを鳥の出る小春哉　青雅
イ　様者ゝ出ゝ雪ゆる小春哉　育杜
カ　柿ぬきも柿も小春の市場哉　伴岡

答ル種　アカウ
フホカ　なりゝと種答や俵の上　生彼
文て者る行ゝ者の者　庫書

秋季

乙舌
一止
一旭
門雪
仙路
物業
籠古
廿裏
雲表

風

[illegible]

風の葉の[illegible]

風や[illegible]

木枯や[illegible]

止時も[illegible]

[illegible]

本の[illegible]

風や[illegible]

巨燵

[illegible]

乳母一人悔しの[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿山
松年
和風
児門
杜境
梅吉

氷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万像
葉裁
梅色
小観
惟子

ぬき　枝の葉　耕雪
降りて　二条　水田小　梅辰

末の葉

上の末ふる吹く末の葉を振の内　梅迄
梅先は紅葉　梅の末の葉ふる　相爲
春てもめて　春ハ高きより降る　き都
嫁獨く出て　又枝の末の葉　蒼机
上紙をぬけ　ハ高きより　白牛
何の末ふて　末の葉ハ　き雅
既つれの　きよりふる　龍古
ぬきも　末の葉ハ　古山

磨奥　命ふて四条先　海外
射ふき　ふき磨奥　樓影
奥寺　ふぬ磨ふ　松古

白ノ喜ふ郷

哀方　ふふ哀方ふ　化鵬
哀ふて　山中　哀方の　府妓
哀のふ　ふ方　方　東門
哀方ふ　ふ方　哀　學館
海ふの　哀方ふ　午竹

考ぐつも　植て去て江戸一ち考くの二茶小　西鶴
考くつゝや　奢のかゝまのうゝ　桐　秋孝

江戸の真　新く小ゝと鳥ぬ小ゝ江戸の真　芋掘　尺外
　　富月や　雪待の芋も江戸の真　秋方
　　るの年の威　義もこ江つゝて江戸の真

俳諧　世を捨ゝ人ものゝ俳諧うゝ　山影
　　俳ゝの用ゝゝ捨ゝ小　一俳

江ノ春ゝゝ部一

炎天　炎て〻ゝ般の迷ゝ尺の秋子迷　西鶴
　　炎て〻ゝ一般ハ捨て白茨　甘糞
　　炎て〻ゝ杖のゝゝ小　一雅
　　炎て〻ゝ捨て所ゝ水の色　松年

枝垂　鄭ゝ根ハ茶ゝ小ゝ枝垂　仁里
　　時ゝて小ゝゝ枝垂　飄因

江ノ秋ゝ初ゝ部
江ノ冬ゝゝ部

夫備

てゝの事ゝ部

帳

ゝ

帳ゝや用ゝ

ゝ

ゝ

蝶

アケコ　蔵よ書のくるかてふ　一　如
メト　用ふまて遠くハゆ　自の様　卜字
クサク　手紙のさしてさくう　色の様　妻宗
ケマテ　紙をくるの鞠まくるお様一ッ　祖友

行きて人の跡追ふかてふハ　任名
トハ　徐てもくる相ひの上や蔭ふ様　右通
フメト　古年仲の用よつくるくう蔭ふ様　物方
ヒクマ　仏本くるまよ交くう蔭ふて　一雅
ソヒ　を蔭くくを中る相ゆ中をの様　丹岩
ソヤヒ　袖よ八ゆよ情蔭ハ名くう　素全
ヒソ　くくくを丹る相様ハ　一僊

鞠

ヨイテ　くもくの物ふのるまくハ　先存
ウテム　矣くきまくを丹巴蔭ふ　物通
カアテ　蔭くくを蔭くくるま鞠ハ　戦美

てノ身くく新文鞠
てノ秋くく新美鞠
てノ名くく新文鞠

あノ美くく新

門の美

ヒテア　白名のま元くく秋ハ門の美　物宝
カヒア　名ちくを中門の美　行保

世水を仮のる者や門の者　蓑甲

陰重や簀垂れの小料理屋　屋帆

陰重のうつさまや送り猪　山影

陰重のうつさ水仕表の乳　冨女

陰重や夕の自の新の内　復物

陰

陰手の夕る糸に中る新篇　小手

陰うつるや小自の茅巻　杉屋

うつるうつるや高うつる　赤自光

制

厚氏者うつさ制る乳　徒と

書纏

書や夕うつさ新夕八机を　業外

書夕よりて紙書る乳　医商

書柳

書や牛水の紙の紙帆箱　睡蹄

書柳より一宿書や書り水　九紙

書柳や姉幌うつる屋店　京池

書柳や灯りの一夕あ　嵯古

書柳や二筋うつ筋書の乳　大莫

書柳や水うつりの小稍う　信池

芽の角　北条氏綱

毎年と呼ばれる所の角　巳の年

引ばるるこの年の角　御蓋

多多の多かりて芽の角

初蕨　源氏

初蕨や小さき家色より出る　素堂

蛇

蛇なくや牛組立て物

蛇なくや色の物の白上り　相蕨

つゝて来て蛇の鳴くの

特牛の蕨て蛇生るあるく　一雅

陸奥